



Title	apenasによる直後性の表現について
Author(s)	出口, 厚実
Citation	Estudios Hispánicos. 2002, 26, p. 35-56
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/93853">https://hdl.handle.net/11094/93853</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# apenasによる直後性の表現について

出口 厚 実

現代スペイン語でapenasの主要な語義として、[1]「ほとんど…ない」[2]「わずかに」[3]「…するや否や」の3つを挙げるのは実用的指針として妥当で、実際、簡約な辞書・語彙集などでもこの語に同様な仕切りと訳語が充てられることが多い。前二者を副詞と分類し、最後の語義を接続詞に指定する辞書もあり、品詞ラベルに関して必ずしも一致は見られないが、より精細な意味細目を設ける場合でも、おおむね上記の基本区分は採用されているように思われる。

先行の出口(1998, 1999, 2000, to appear)で、副詞apenasの意味核心を規定しようと試みながら、“近似否定(ほとんど…ない)”と“下限評価(わずか、ただの)”の用法を数量化とのかかわり方を中心に検討して来た。両者の間には共通の芯的意味作用が潜在する点やさらに基本タイプと派生的な変種の特性とその分布状況を明らかにした。本稿では第3の語義、すなわち、“直後性(…や否や)”のさまざまな様相をやや詳しく調べてみたい。

apenasを許容し、また規制する統語環境やその条件に応じた分類基準を重視し、「副詞」あるいは副詞的な節内機能を果たすものと、複数の節を連係する「接続詞」的な用途に分割するところからスタートする慣習も広く見られる。この方式に従えば、後者の接続詞的な用法の中心に[3]が置かれるのは一般的である。しかし、ここでは、行為・出来事の“直後性”に焦点を絞り、この意味特性を伴って各種の構文に現れるapenasの多様性を整理してその全体像をつかみ、最終的には[1][2]の語義と統合を視野に入れたと思う。

## 1. 単行apenasにおける「直後」指示

apenasは動詞と共起することで、動詞が表す事態の最小限度の実現がなされたことを明示する。行為の十全な展開や完遂に程遠いが、行われ(始め)たのか行われなかったかの択一を迫られれば、曲がりなりにも実現に漕ぎ着けたのであり、その始動部の真性価値は揺るがない。ただ、通常期待さ

れる程度や範囲と遂行にまで至らず、その実質内容が乏しいことが示される。このような落差が質的数量的に理解されるケースが、apenasの用例の大部分を占めるであろう。

動詞とその内項、外項を合わせた意味的外延とその実行に要する時間には比例的関係が存在するはずであるから、apenas+動詞の形式は動作の開始後わずかの時間が経過した時点のあり方を示しているといえる。「わずかに…する」「ちょっとだけ…する」に含まれる量的意味合いは、時間軸に変換すれば「…したばかりである」に対応すると考えられる。しかし、このような見方は、apenasの本義を「ほとんど…ない、わずか」に結びつける通説に影響された、逆立ちした発想であり、むしろ、直後性の意味がapenasのより根源近くに存在するとみなすのが本論の主張である。すなわち、既述のように[出口(1999, 2000)]、apenasは臨界到達の直後の事態を示すのであるが、その機能は、時間の経過を前提にしてはじめて説明がつくものであり、量的に認識された状況から時間的な直後が推論されるのではないと考えられる。

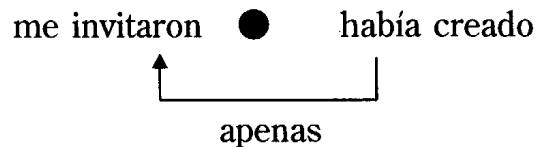
開始、始動、終了局面を意味する動詞はその語彙的アスペクトから、臨界の基準が“始まり(終了)時間”そのものに絞り込まれる傾向があるため、臨界到達が時間的な直後[であり、量的内容でない]と解釈され易いと考えられる。下記の例では、empezar, acabar, crearがapenasを伴って現れて、その「始まり」や「終わり」が成就しているのは明らかである。

- (1) Me invitaron para encabezar el nuevo organismo que apenas había creado el Presidente Miguel de la Madrid, Renovación Habitacional Popular. 「大統領が創設したばかりの新しい機関」 [EX: 26/03/97]
- (2) Esos comentarios le cayeron como agua fría que le lavaron las pocas ideas que apenas empezaban a aflorar. 「浮かび始めたわずかの考え」 [BB]
- (3) Desconfía de los halagos de personas que apenas acaban de conocerle y también de las que tienen más amistad contigo, porque ninguno de ellos se apega a la verdad; 「あなたと知り合いになって間もない人々」 [JV]

- (4) La policía sabe que esto apenas empieza, porque mañana vuelve a jugar Turquía - sus hinchas son de los más agresivos -, [...] 「これ(サッカーの観衆の暴動)はほんの序の口である」 [NA: 18/06/00 Deportes]
- (5) La situación se agravará porque esto apenas empieza: 「これは今始まったばかりなので、事態は深刻化するだろう」 [NA: 10/11/00 General]

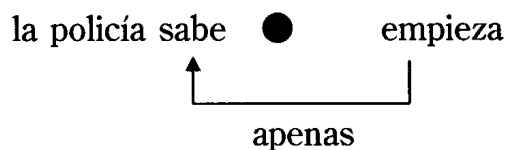
文(1)及び(4)を例にとり、apenasが作り出す局部時間位相をもう少し詳しく見てみよう。(1)の関係節内の「創設した」había creadoが「私が招かれた」時点より前であったことは両動詞の時制形式によって表示済である。副詞apenasは後者に覆い被さることによって2つの事象を隔てる時間を最小化する時間圧縮作用を行っている。ここで、“直後”とは、関連付けられる対象となるもう1つの事象(あるいはコンテキスト時間)と、apenasを伴う動詞の出来事が達成された時との幅が極小であることを後者から見た判断である。

(6)



また、例文(4)では関連する2文の動詞は共に現在時制形であるが、apenasが付加されることにより、empezarの事態がわずかながら、主節のsaberの始まりおよび参照基準時間(文脈が言及する現在時)に先発していることを表している。

(7)



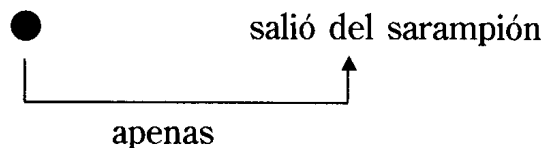
このように、apenasが直接、文構造を接合する従属マーカーとして機能し

ているとは認めがたいけれども、動詞句に働きかけて、その時間特性を引き出し、それを振り向けて照合させるための別の動詞表現が近接することが分かる。文(1)～(5)において、*apenas* + 動詞は関係節や従属節に出現している。つまり、独立した単文だけでは直後性が標識化されにくいのではないかということを示唆する。

上の諸例のいずれでも、*apenas*は動詞から独立して特定の時点を生成していないことに留意しなければならない。(8)のように、“今、その瞬間”などを座標原点にして時を示す用法、すなわち、「(今から)ほんの少し前、ちょっと前に…した」を意味するケースは一般化していない<sup>1)</sup>。

(8) *Apenas salió del sarampión.* [DM : 120] 「彼は麻疹が治ったばかりである」

発話の瞬間



この用いられ方では*apenas*が修正して指し示す新時点では、変数である基準時(黒丸印●)と一致し、動詞の出来事とその「直前」であることを表しているが、興味深いのはその時に実現済みであった動詞の出来事側から見ると、(1)～(5)と同じように「直後」に相当する事実である。

## 2. 過去分詞構文における*apenas*

この節は、過去分詞が*apenas*に先行されて出現することにより、動詞事態が完結状態に達した“直後である”意味が加味される場合を扱う。*apenas* + 過去分詞の資格が形容詞句であり、従って*apenas*がその内部の副詞と見なされる構文と、絶対過去分詞構文に先行する*apenas*のケースに二分することができる。後者では*apenas*は節の冒頭に位置することが多くなり、それだけ接続詞的な働きをより強く帯びる。

### 2. 1. 形容詞的過去分詞

文(9)で意図されるのは「受け取ったばかりの電報」であり、*apenas* + 問題の動詞に受領方法の困難さや、ほとんど非受領、受領の少量等をこじつけ

るのは無理であろう。明らかに言及時点(transmitió)がrecibirの直後であること、言い換えれば、「直前に受け取られた」ことを指示している。

(9) Como era habitual en los suburbios, la oficina de correos transmitió telefónicamente el cable apenas recibido. [ME: 18]

(10) A pesar de la dicha de ese amor apenas estrenado, Irene no apartaba de su memoria la visión de la mina. [AS: 203]

名詞を直接修飾する位置ではなく、主格補語[cf. (11)]、直接目的格補語[cf. (12)]として働く過去分詞がapenasに先行されることもある。このときも、「生まれて間なしに、死なれた(連れ去られた)」意で、やはり誕生後の経過時間のわずかさを強調している。

(11) La que le dio aquel hijito que se les murió apenas nacido, dizque porque ella estaba incapacitada: [PP]

(12) Tenía muy presente el día que se lo había llevado, apenas nacido. [PP]

下例の過去分詞は、前に位置するhora「時間」を叙述する独立のatributoとして振舞うかのように見えるが、次項で述べる絶対分詞構文の片割れとみなすこともできるだろう。

(13) Mayo de 1996. Autovía N-IV en dirección a Sevilla. Hora, apenas pasadas las 10 de la mañana de un día nublado pero sin lluvia. [MN: 21/05/96 MOTOR]

## 2. 2. 絶対分詞構文

過去分詞形動詞が参与するいわゆる絶対構文では、過去分詞を含む構造があたかも従属節であるかのように振る舞う疑似的な主従関係が認められる。過去分詞のもつ基本的アスペクト機能が反映されて、主動詞が実現される時間が分詞形動詞の指示時間に先行することがすでに信号化されている。すなわち、後起性「…したのちに、…してから」を内蔵しつつ接続機能

を有す過去分詞にさらにapenasが付加されることにより、「…するや否や」「…するとすぐに」の直後性を表す連結詞となる。

絶対分詞構文の成立要件をクリアする必要があるので、下例に見られるように、ある種の自動詞[非対格タイプ]p.ej. (14) – (16)および他動詞 p.ej. (17) – (20)に対して使用可能である。

### 2. 2. 1. 自動詞

- (14) Apenas llegado a San Guacamole, nuestro héroe se enamora de una very typical y bella nativa que enciende en él la llama de la justicia y [...] 「San Guacamoleに着くとすぐに」 [SG]
- (15) Apenas amanecido el 20 de junio de 1596 entró en la bahía de Cádiz una embarcación ligera con gran escándalo de voces, [...] 「夜が明けるや否や」 [MN: 16/06/96 CRONICA]
- (16) Esta idea, que me vino ya en la calle, después de haber deambulado sin rumbo, se afianzó en mí apenas nacida, y me llevó en línea a la estación del Norte, [...] [QE: 294]

### 2. 2. 2. 他動詞

- (17) Apenas iniciado el primer intercambio de golpes, el árbitro detuvo el combate y decretó match nulo. 「最初の撃ち合いが始まるや否や」 [MN: 21/04/96 OPINION]
- (18) Apenas traspasada la ciudad de Fier, comenzamos a ver los camiones del Ejército. 「Fier市を通過直後に」 [AB: 06/03/97]
- (19) Apenas puesto en marcha el proceso, autoridades nacionales y provinciales mencionaron que 10 grupos, entre ellos varios japoneses, estaban interesados. [NA: 06/08/97]
- (20) Ya en la mañana, apenas hallado el cádaver, se habían producido empujones y algunos golpes entre vecinos y policías por desconfianza en la

acción de los uniformados. 「朝になって、遺体が発見されるや否や」  
[NA: 09/02/01 General]

過去分詞はブロック内で先頭にあり、apenasがさらにそれに先行して、構造の冒頭位に立つのが普通であるため、この小辞が接続子のような働きを演じていると解釈されやすい。観察例のようにapenas+過去分詞が主動詞に先行するのが多いようであるが、義務的ではない[cf. (16)]。また、この直前生起の事態が文(または節)的統語構造にのみ結合されるとは限らないことを、例(21)は示している。ここでは、「1994年に映画撮影が終了した直後に亡くなったTroisi」を意味していて、apenas terminado el rodaje del filmeは、この前後にまたがって出現する主文を修飾するのではなく、fallecido「死亡した」のみに先後関係を設定している。

- (21) La hermana de Troisi, fallecido apenas terminado el rodaje del filme en 1994, aseguró que un Oscar sería «un justo reconocimiento a toda su carrera». [MN: 14/02/96 CULTURA]

## 2. 3. después de + 過去分詞

絶対分詞構文の変種として、後時・後発の前置詞después deとの共起が見られる。この種の過去分詞にapenasが付随したのが次例(22)である。

- (22) Así se justifica a sí mismo ante sus lectores, ofreciéndoles unas memorias públicas o profesionales que suelen ir derechas a la papelera después de apenas leídas. [MN: 08/06/96 ESFERA]

## 2. 4. 過去分詞と形容詞

過去分詞を従えるapenas構文は、独立した1つの定型なのではなく、属辞として働き得る形容詞相当語句の前位で、上述のような直前性を帯びる用法の一部とみなす見解が有るかも知れない。文(23)の形容詞despiertaは過去分詞でないもの、apenas+despiertaは2.1., 2.2.節で扱われた類型に属するだろう。

- (23) Por la mañana, apenas despierta, escuchaba ya sus pasos medidos,

cautelosos, [...] [LX]

しかし、動詞派生の過去分詞に具備されるような“時間推移のアスペクト的性質”を有す純粋な形容詞はそれほど多くなく、apenas + 形容詞のほとんどは、近似否定または下限評価の意味で用いられている。もちろん、逆に、過去分詞構文の中に下限評価のapenas が含まれていて、直後性を意味しない例があるのも事実である。

### 3. apenas + 不定詞

不定詞の直前に配置されたapenasによって「直後性」を意味する用法を、これまでの辞書はほとんど取り上げることがなかったようである。Seco et al. (1999: 378)で、かろうじて[稀]のコメント付きで語義と例文が与えられているのは例外的である。規範的な観点から歓迎されなかったのか、理由は明らかでないが、この前置詞的構文の使用は現代の報道文でときおり見受けられる。

(24) La designación de Alemania como sede del Mundial 2006 se rodeó de polémica apenas producirse. 「行われると直ちに」 [PA: 07/07/00]

(25) En estos casos, la enfermedad tiene complejo tratamiento, pues no se sabe bien si la dolencia es aguda o crónica; lo único seguro es que al paciente, apenas infectarse, le da fiebre y se pone a gritar cosas incoherentes como «¡ progresistas al poder, progresistas al poder !». 「感染するや否や」 [MD: 19/07/01]

(26) Apenas hacerse públicos los primeros resultados, las emisoras contactaron con el escritor Mario Vargas Llosa, quien desde España subrayó su satisfacción por el triunfo de su amigo Toledo y dejó claro que no tiene intención alguna de integrarse en su equipo de gobierno. [MD: 04/06/01]

(27) Apenas enterarse de la postura adoptada por el Supremo, el juez Sanders anunció que iba a revisar escrupulosamente el escrito del magno tribunal. [MD: 05/12/00]

- (28) Apenas iniciarse el encuentro, en el minuto 1, el Valencia abrió el marcador con gol de Macías que resolvió de cabeza un barullo en el área del Amanecer, [HY: 02/05/01]

#### 4. apenas + 現在分詞

現在分詞構文が apenas を伴い、かつ主動詞の始動が分詞形動詞の実行後に起きるとみなされるとき、apenas は直後性の表示を助けているか、少なくともその解釈に矛盾をきたさない。文(29)は、「キャンプから出るやいなやチョモロンマの壮大な眺めを楽しんだ」を意味するが、disfrutar と「ほとんど同時に」、言い換えれば「出かけかけたらすぐさま」を表している。過去分詞では動作の終結を前提するのに対して、この構文では、実現が端緒についた途端に、主文の事態が行われたことを示している。

- (29) Apenas saliendo del campamento disfrutamos de la vista majestuosa de la Chomolongma, la estampa del Everest que parece erguirse directamente al cielo, en una altura casi incomprensible para la perspectiva. [UN: 06/05/01]
- (30) Horas después el taxi apareció destrozado y don Carlos, apenas recuperándose de los golpes, se dirigió a tramitar la denuncia correspondiente. [ND: 06/12/98]

副詞的に従属する現在分詞ではなく、名詞句の叙述補語となる分詞に apenas が先行するのが次の例文である。いずれも、「…しはじめたばかり」を表し、名詞句を含む文またはそのコンテキストの指示時間が分詞形動詞の意味が実現され始めた時の直後であることを含意する。

- (31) Trullen incorpora a su staff al sonidista argentino Francisco Diumenjo, al laboratorista Manuel Cáceres, y a dos asistentes apenas entrando en la adolescencia a quienes hizo sus discípulos: Julio Barrionuevo y Pedro Valdivieso. [CB]

- (32) “¡ Vaya ! Yo un niño. Con 55 años encima. Él apenas comenzando a

vivir y yo a pocos pasos de la muerte” 「生きることを始めたばかりの彼と死のすぐ近くまで来ている私」 [PP]

## 5. 他の節と呼応する用法

### 5. 1. cuando apenas (si) + 主文

副詞apenasは一般的な“時の従属節”の内部に現れることができるから、cuandoに導かれる節の中で、他機能(「わずか…、たった…のときに」, etc)の他に、直後性を指示する機能をもつ可能性がある。すなわち、「…したばかりの時に」の意味で、時間性と接続機能がcuandoに分担され、apenasは専らその核的意味である臨界到達を標識化していると考えることができる。

- (33) [...], pero existen registros históricos que evidencian la existencia de un cuerpo de músicos en cada una de las siete provincias cuando el siglo apenas nacía, allá por el año 1907. 「20世紀が幕を開けたばかりのときに」 [ND: 28/02/99]
- (34) Y soplan ya vientos de reforma cuando apenas se acaba de implantar la Logse. [VR] 「導入されたばかりのときに」
- (35) A tal punto que el primer consejo surge cuando apenas se pisa esta ciudad: recurrir a un caramelo para que no se reseque la garganta y así evitar algún mareo. [NA: 28/02/01 Deportes]
- (36) A las tres de la tarde, cuando apenas si había vuelto de donde León María, llegó una mujer envuelta en pañolones, mirando nerviosamente a los lados, a advertirle que esa noche, si no se hacía algo, en Tuluá iban a aparecer muchos muertos regados en sus calles. [CD: 71]

数量表現と共起する構造については、apenasがその数量を修飾対象にせず、従って「わずか…だけ」を意味することなく、動詞意味の臨界通過のみをマークし得るのかどうかは微妙である。ミッキーマウスの歴史を述べている一節(37)では、「わずか12歳になったとき」、という数値評価と共に、直後性も意図されているように思われる。下記例文(38)では完了したばかりの

「直後」の状況を指していると同時に、24時間を僅少とみなす話者の判断をも含んでいると解釈できるだろう。

- (37) Entre 1940 y 1941, cuando apenas había alcanzado sus 12 años, el ratón recibió un fuerte tratamiento de color; [...] [ND: 29/11/98]
- (38) Cuando apenas se cumplen 24 horas de la inesperada decisión de Barak de apartarse por un tiempo de la vida política renunciando a todos sus cargos, se ha desencadenado una frenética carrera por apropiarse de sus despojos políticos. [PA: 22/02/01]

また、前置されたapenasが、cuandoで導入される副詞節全体を修飾し、両者で「…するや否や」を表示することもある：

- (39) Y claro que me habrían sobrado manos para acariciarla, porque apenas cuando rocé sus dedos imaginé un furioso viento y abracé tímidamente su mano intentando que el cigarrillo no se encendiera nunca. [MT]

## 5. 2. apenas…cuando

主文動詞句がapenasを含み、後方にcuando節を従える構文は、かなり多くのケースで直後性の表現に利用されている。以下では、この統語パターンに相当するものをいくつかの下位クラスに分類しながら、具体的な例文を示して確認する。

### 5. 2. 1. 他機能(非直後性表現)のapenas

cuando節が後続するけれども、主節においてapenas+動詞がその直前になされた出来事を表すのではなく、apenasのもつ他の機能(“ほとんど…ない”, etc.)が使用される。

- (40) Varias veces me levanté de mi cama a la de Lorenzo, que apenas se había movido cuando entré, y [...] 「彼は、私が入っていったとき、ほとんど身動きしなかった」 [QE: 293]

## 5. 2. 2. +cuando従属節

通常のapenas文がcuandoで導かれる従属節を伴うケースである。従属副詞節で指されたその時点で、主節の動作が実現され(始め)たばかりの状態であると述べる。(肯定形の)動詞の後位に出現するか、主語が文頭位置にあるために、apenasが節を先導しないのが(41)～(45)である。apenasと組む動詞は状況の終結・開始タイミングを表すかあるいは内包する語彙的アスペクトで特徴づけられる。

## 5. 2. 2. 1. ～apenas～cuando

- (41) Sus palabras apenas había (sic) concluido cuando un intenso crujido le hizo enmudecer. 「彼の言葉が終わった途端に」 [WE]
- (42) Empezaba apenas con clases de horario nocturno cuando me visitó la tía. [SO]
- (43) Había empezado apenas a subir la cuesta empinada de la calle, cuando el taxi amarillo lo rebasó lo cerró contra la acera izquierda, y el chofer tuvo que frenar en seco para no chocar. [NS]
- (44) Me disponía apenas a poner las mías en la plataforma, cuando me preguntó: [AL: 24]
- (45) Y apenas habíamos entrado en la curva, cuando surgió aquel maldito perro, una sombra negra con ojos brillantes, [...] [AP: 21]

## 5. 2. 2. 2. apenas～cuando

次の3つの文に観察されるように、apenasが節の冒頭に立つ場合は、後続のcuandoと呼応することで、より接続詞らしい様相を示す。特に明示的主語がapenasより後置されるような例[Cf. (46)]では一層、第6節の接続詞タイプの構造に接近する。

- (46) Apenas estaba el resero sentado en el escritorio, cuando don Toribio la sacó sigilosamente de su caja de hierro, donde la tenía guardada, y

pasando a la pieza vecina la entregó a doña Rudecinda, [...] [VT]

- (47) Apenas empezaban, cuando Mauricio Vargas entró en puntillas y le dijo al oído: [NS]
- (48) Apenas había anochecido cuando se escuchó como un inmenso trueno. [PA: 21/05/01]

### 5. 2. 3. 数量化を含む apenas + cuando 節

apenasが動詞の意味実現だけでなく、その直接目的語や補語を数量化したり、間接的に表示数量を評価することは出口(2000, to appear)で詳説した。「数メートル」という数値が明示された次例においては、「この距離分の前進」が完結した直後であるという時間表示とともに、「わずか、たかが数メートル」という下方評価解釈が融合していると見ておかしくないだろう。

- (49) Apenas había avanzado unos pocos metros por la calle cuando oí de repente un grito desgarrador. [TR: 162]

同様に、下文(50)に現れる主語の時刻表現 las seis y media de la mañana 「午前6時半」に対しても、“朝の未だ早い時刻である6時半”という評価が込められていると見られる。

- (50) Apenas pasaban las seis y media de la mañana, cuando el corazón de Logroño retumbó. [MD: 11/06/01]

### 5. 3. apenas...y

apenasを含む文Aともう1つの文Bを接続詞yで結んだ等位構造であるが、B y Aの順に入れ替えることは出来ない。A文単独で直後性を表すことが可能だが、継起順を念押しする接続詞を補うことによって、両者の時間的接近をさらに強固にしたものと思われる。等位接続詞yの直後にyaを伴う事例が多く発見された。

- (51) Apenas ha salido la primera parte de mi largo viaje y ya se han lanza-

do a condenarlo, sin ni siquiera tomarse la molestia de leerlo completo. 「私の長編紀行の第1部が出版されるや否や」 [MN: 18/03/96 CULTURA]

(52) Todos los del pueblo eran así. Apenas llegaban y ya estaban pensando en la vuelta. 「到着するかしないかのうちに、もう帰路のことを考えていた」 [PD]

(53) Los niños que han nacido allí se han ido... Apenas les clarea el alba y ya son hombres. [LL]

この他、*apenas*が文中に埋もれて節の冒頭に露出しない先行の文に、*y*で始まる別文が共起して、2つの事態が連続するケースがある。文(54)(55)では、通常の近似否定の文の後にもう1つの文が続いていると見なして差し支えないだろう。ただし、微量の解釈が時間的で、「一瞬…した」、「ほんのわずかだけ…した」後に、後半文の行為が起きたとすれば、直後の出来事を意味するから、実質面に大差はないとも言える。

(54) Salió apenas de su amargo cavilar sin fondo y nos miró como a sombras de un mundo del que se hallaba por completo ausente. [MA]

(55) El controlador lo miró apenas, y me lo devolvió sin mirarme. [AL: 152]

#### 5. 4. *apenas*と突発性

Diccionario Salamanca(1996)は、この副詞についてもっとも詳しい記述と用例を提供する辞書の1つであるが、「直後」を表す接続詞的な*apenas*のうち、特に、*apenas…cuando*、*apenas…y*の構文に対して、別語義を立てているのが特色である。「予期せず、突如現れる」状況を導入するこの用法の意味は*no bien, casi aún no, casi aún no del todo*であるとし、“ほとんど未だ…しきっていないうちに”という否定色の滲んだニュアンスを強調している。また、「突然さ」を明示する語句*súbitamente, de repente, de pronto*との共起が指摘されている。

- (56) Apenas había empezado a hablar, cuando de pronto, se oyó un grito en la sala. [DS: 111]
- (57) Apenas habían andado cuatro pasos y, de repente, el secretario se llevó la mano y se desplomó. [DS: 111]

しかし、cuandoまたはyに後続されるときに、apenasを伴う動詞の実現が一步手前で未遂に終わるという点と、始動済みとほとんど未着手の2つの事態が区別して表現されるという点を証拠立てるのは難しいように思われる。さらに、突発性を表現する副詞的語句が付随して現れるケースはそれほど多くないようで、今回の対象資料からは前掲文(49)および次の2例のみを記録することができた。

- (58) Cogimos el coche que estaba aparcado a la puerta de casa y, apenas arrancamos, dimos dos pasos y en la misma esquina de mi casa de repente un coche se nos cruzó en la calle y nos cortó el camino. [MN: 05/02/96 MADRID]
- (59) 《Son mensajes que apenas llegan a los adultos que se dan cuenta de la fuerza del producto cuando de repente se lo piden sus hijos》, dicen. [MN: 07/04/96 CRONICA]

2つの出来事が間髪を入れずに起こることをわざわざ述べるのは、それが「意外である、予想されなかった、唐突である」との印象に基づくことはごく自然と思われるので、取りたてて、このタイプのapenas構文に固有な性質とは捉えない。

## 6. 接続詞apenas

多くの文法書で言及され、どの辞書でも語義の1つとして確立されているのは、apenasが文を導入する位置に出現し、かつ別の主文に対して副詞的に従属するよう見える用法である。tan pronto como, no bien, en cuanto, inmediatamente queなどに相当する役割を演ずるこのケースではapenasが接続詞として扱われることも多い。例えば、下の例文(60)においては、

同様に時間を限定する、別のcuando節と並列されていることから、apenasがいかに従属節導入標識らしく見える。

- (60) Apenas finalizó la conferencia de prensa y cuando todavía no se había ido todos los ministros de la Casa Rosada, varios de los empleados de planta comenzaron a buscar precisiones entre los periodistas. [NA: 12/07/01 Política]

apenas節は主文に先行することも出来るし[6.1.(61) - (67)]、また後続することもある[6.2.(68) - (74)]。なお、apenasが節頭に来ない例文(65)は、前者の変異形で、主節の主語が節外に取り出されたものとする。

#### 6. 1. \_\_ + 主文

- (61) [...], pero apenas piensa esto, se avergüenza nuevamente. [GR]
- (62) Nunca se le quitó esa virtud como otros hombres que apenas se casan tratan a su mujer como a las bestias decía Digna, [...] [AS: 19]
- (63) Apenas la enferma superó la crisis de muerte de los primeros días, la doctora O'Brien fue a visitarla con regularidad y se encerraba por horas a conversar con ella. [PI: 321]
- (64) Apenas había salido Mauricio, llamó Augusto a Liduvina. [NB: 194]
- (65) Daniel, el Mochuelo, apenas desayunó regresó al pueblo. [CM: 205]
- (66) [...], porque sabía que apenas la niña la necesitara estaría de nuevo a su lado, y [...] [PI: 61]
- (67) Apenas ha bajado, mi hermano el mayor ocupa la tribuna y se encarga del panegírico en nombre del vecindario, [...] [CO]

## 6. 2. 主文+\_\_

- (68) Quiero irme de aquí suplicó apenas pudo sacar la voz, pero su amigo insistió en quedarse hasta el final. [AS: 110]
- (69) Alfredo Bryce Echenique planea volver a su Lima natal apenas termine esta novela. [LT]
- (70) [...], aquellas atenciones que le hacía aceptar a la fuerza, y que consistían en desayunar en la cama apenas estaba acatarrada, vestirse “muy bien”, con telas y hechuras escogidas – y regaladas – por la misma señora; [PN: 218]
- (71) Luis Ordorica Cano se despertó como todos los días, apenas despuntaba el alba. [CX]
- (72) [...], es cierto, pero se recuperará en pocos días apenas empiece a comer como antes, seguro esto es una indigestión, [...] [PI: 35]
- (73) El primer beso de Valeria a Alejandro se dio apenas ella llegó al altar y derramó las primeras lágrimas al oír las palabras del padre White acerca del significado del amor. [AC]
- (74) –¿ Conque todo, todo lo arrostras ?– me interrogó maravillado, apenas hube concluido mi relación-. [MR]

上掲の各採取用例から確認できるように、直後性表現のapenas節に現れる動詞の文法時制は、直説法現在、過去、不完了過去、現在完了、過去完了、直前過去完了、接続法現在、同過去などと多様で、時の副詞節に対する一般的な制限範囲内であればすべて許容されるように思われる。

## 7. おわりに

本稿で取り上げた「直後性」を表すapenasの諸用法は、この語に備わる意味中核から容易に説明可能である。臨界通過の局相が“時の経過”を中心

に認識されたのが「直後性」である。一方、その状況での活動成果あるいは達成度の量的評価と解釈されるのが「近似否定」や「下限評価」である。近似否定(「ほとんど…ない」)をベースに時間座標へ焼き直し解釈されたのが“直後性”なのではなく、むしろ最低達成点への到達そのものに直後性が内包されていると考える。すでに見てきたように[出口(2000,to appear)], 同行相手である動詞の語彙意味を満たす最低限度の質・量に達していることをマークするのがapenasの主務であった。apenasは動詞が伝達しようとする出来事そのものの評価だけでなく、その傘下にある文の諸要素に対しても量化や数量評価を及ぼす。このとき、物量や頻度・強度の尺度によってではなく、それに費やされた時間量で測られれば、事態の生成直後またはかろうじて成立するその時点を指し示すことになる。継起的解釈を許す文脈やとくに動詞の語彙アスペクト、時制形からそれが可能ならば、独立文でも、あるいは文中でapenasとして通常の(非接続詞的)位置にあっても直後性の意味が伝達されるのを見た。

最後に、各用法と所属すべき統語クラスの問題について付記しておく。副詞～前置詞～接続詞の境界線の引き方やその理由付けは重大な根幹問題とは思われないので、ここでは言及しない。ただ、例えば、類似の意味を示す“después”, “antes”, etc.と単純に比較する際に見られる表面的な相似と平行性には注意すべき陥穽がある：

(75)

- |        |                |      |   |        |      |
|--------|----------------|------|---|--------|------|
| a. 副詞  | después        | ～動詞  | ／ | apenas | +動詞  |
| b. 前置詞 | después de     | +不定詞 | ／ | apenas | +不定詞 |
| c. 接続詞 | después de que | +節   | ／ | apenas | +節   |

‘apenas’について言えば、despuésと異なり、その元の姿のまま、deを従えることなく、あるいはde queを従えることもなく、前置詞または接続詞として働くことができると主張しても、そのこと自体に問題はないだろう。ただし、この図式で、何を基軸として時間的な前後を指示しているかの違いを見失わないようにしなければならない。(75)a. で対比されるのは動詞実効時間Vと直示中心(参照基準となる時間)Rで、(76)のように表せる：

(76)

después	apenas
R <<< V	V < R

それに対して、(75)b.c.で対比されるのは、不定詞形の動詞実現Rと主動詞実現Vの時間で、次の(77)の関係が成立する：

(77)

después	apenas
R <<< V	R < V

このようなズレが生じるのは、副詞用法のスキーマ(76)において、despuésが直示中心(の時間)を変数とする関数であるのに対して、apenasが動詞行為(の成就)時間を変数とする関数であるからである。después(x)の出力である時間に動詞の出来事が生じることを伝達しているが、xは文脈依存の時間である。一方、apenas(x)では動詞の実現時がxであり<sup>2)</sup>、その直後の時間が関数値として出力される。副詞とされるdespuésの基軸時間は、ahora, ese momento, etc. であり、単純にdespuésの姿をとって現れているけれどもdespués de ahora (ese momento)を意味していて、暗黙裡にxを含んでいると解釈できる。

[注]

1. スペイン語圏の代表的な辞典はいずれも独立した語義として取り上げていないが、DM(=Diccionario del español usual en México)は語義の1項目として認め、さらに用例として次の各文を与えている：
  - i) Apenas comienza a caminar. 「彼はまだ歩き始めばかりだ」
  - ii) Apenas firmaron los papeles. 「彼らはちょっと前に書類に署名した」
2. 第1節で指摘したように、xが文脈依存の直示時間である用法が地域的に見られる。この場合、apenas(x=ahora, este momento, ese momento, etc)の値は“今(そのとき)の直前で、ちょっと前に”である。従って、hace poco, hace un momentoを意味するので、やはりdespuésとは平行しない。

## 例文出典

- AL García Márquez, Gabriel: "La aventura de Miguel Littín clandestino en Chile". Editorial Oveja Negra, Bogotá, 1986.
- AP Riera de Leyva, J.M. "Ave de paso", Ed. Anagrama, Barcelona, 1993
- AS Allende, Isabel "De amor y de sombra", Editorial Diana, S.A. México, D.F., 1990
- CD Álvarez Gardeazábal, Gustavo "Cóndores no entierran todos los días.", Ediciones Destino, Barcelona, 1972
- CM Delibes, Miguel "El camino", 15a ed. Ediciones Destino, Barcelona, 1991
- DM "Diccionario del español usual en México" El Colegio de México, 1996
- DS "Diccionario Salamanca de la lengua española" Santillana /Universidad de Salamanca, Madrid, 1996
- ME Mishima, Yukio "Muerte en el estío" en "La perla y otros cuentos" Magdalena Ruiz Guiñazu 訳、2a ed. Edición Siruela, Madrid, 1988
- NB Unamuno, Miguel de "Niebla" 3a reimpresión, Alianza Editorial, Madrid, 1993
- PI Allende, Isabel "El Plan Infinito", la ed. Plaza & Janes Editores, S.A., Barcelona, 1991
- PN Laforet, Carmen "El piano" en "La llamada" 3a ed. Ediciones Destino, Barcelona, 1966
- QE Martín Gaité, Carmen "Lo que queda enterrado", en Francisco García Pavón (ed). "Antología de cuentistas españoles contemporáneos (1939-1966)", Editorial Gredos, Madrid, 1971
- TR Latorre, José María: "Las trece campanadas", la ed. Montesino editores, Barcelona, 1989

## 例文出典(電子化データ)

- AB ABC Electrónico, Prensa Española, S.A. (<http://www.abc.es/>)
- AC ABC Color, Suplemento:Revista (Asunción, Paraguay), No.20 Ejemplar del 17/05/98
- BB Brian Briz: "Composicion forzada" <Antología del Micro-cuento

- Inesperado II por Jossé O. Alvarez
- CB Suplemento de Cambio Perú, 21-27 de febrero 2000. (<http://www.cambio-peru.com/html/supl.html>)
- CO Julio Cortázar: “Conducta en los velorios” <Literatura Argentina Contemporánea (<http://lenti.med.umn.edu/~ernesto/Literatura.html>)
- CX Gabriel Molina Eguialis: “Conexión maya” <“Queidea y Media” Número 22 (1998), (<http://www.cibermedios.com/queidea/relatos/novelal.htm>)
- EX Excelsior, Excelsior Cia. Editorial. (<http://www.excelsior.com.mx/>)
- GR Rosa Beltrán: “Grafiti” <Cinco décadas de cuento mexicano. (<http://www.arts-history.mx/cinco.html>)
- HY Hoy Digital (diario de Extremadura), (<http://www.hoy.es/diario/portada.htm>)
- JV Jóvenes (revista ecuatoriana), Sept. 2, 1997 (<http://explored.hoy.net/publica/jovenes/jovenes.htm>)
- LL Juan Rulfo: “El llano en llama” <Claude Fell Colección Archivos ([http://serpiente.dgsca.unam.mx/serv\\_hem/libros/rulfo/](http://serpiente.dgsca.unam.mx/serv_hem/libros/rulfo/))
- LT “Letralia, Tierra de Letras”, Edición 21, 7 de abril de 1997
- LX Núria Sebastián Gallés: LEXESP, Léxico informatizado del español. Edicions Universitat de Barcelona, 2000.
- MA Álvaro Mutis: “La Mansión de Araucaíma y otros relatos” <Biblioteca Familiar Colombiana, Presidencia de la República
- MD Diario El Mundo. El Mundo del Siglo XXI, S.A.
- MN El Mundo en CD-ROM, /Primer Semestre 1996, Mundired.
- MR Jorge Isaacs: “María” Biblioteca Familiar Colombiana (<http://bachue.banrep.gov.co/biblio/bvirtual/literatu/lmaria.htm>)
- MT Eduardo Betas: “Mesas tristes de café” <El Golem. (<http://www.doxa.olm.net/elgolem/paises.html>)
- NA La Nacion Line, (<http://www.lanacion.com.ar/>)
- ND La Nación Digital. Revista Dominical. San José, Costa Rica. (<http://www.nacion.co.cr/dominical/>)
- NS Gabriel García Márquez: “Noticia de un secuestro” <Americanativa (<http://americanativa.8k.com/>)

- PA El País Digital, Diario El País, S.A.
- PD Haroldo Conti: “Perdido” <Literatura Argentina Contemporánea  
(<http://lenti.med.umn.edu/~ernesto/Literatura.html>)
- PP Juan Rulfo: “Pedro Páramo”, Edición Crítica. Claude Fell Colección Archivos, (<http://serpiente.dgsca.unam.mx/servhem/libros/rulfo/>)
- SG Ernesto Mallo (argentino): “San Guacamole” <Proyecto Sherezade.  
(<http://www.princeton.edu/~enriquef/atrasados.html>), 1998
- SO Roselia Bonifaz de Hernández: “Soledad” 1998, <Proyecto Sherezade.  
(<http://www.princeton.edu/~enriquef/atrasados.html>)
- UN (Diario) El Universal, Leer Fuera de Línea
- VR La Vanguardia, La Revista de Domingo, 8 de abril 2001
- VT Godofredo Daireaux: “Las veladas del tropero” <Biblioteca Digital Argentina, Clarín. ([http://www.clarin.com.ar/pbda/novela/segundo\\_sombra/segundo\\_00indice.htm](http://www.clarin.com.ar/pbda/novela/segundo_sombra/segundo_00indice.htm))
- WE Adolfo Pérez Agustí: “H.G. Wells y la máquina de tiempo”,  
(<http://usuario.tiscalinet.es/adolfo/hgwells/>)

### 参考文献

- Seco Reymundo, Manuel et al. (1999) Diccionario del español actual.  
Aguilar, Madrid. Vol.I
- 出口厚実 (1998) 「apenas : 否定性に関わるいくつかの特徴 (1)」- Estudios  
Hispánicos 23, pp.31 - 40
- (1999) 「apenas : 否定性に関わるいくつかの特徴 (2)」- Estudios  
Hispánicos 24, pp.1 - 12
- (2000) 「apenasと被数量化要素」- Estudios Hispánicos 25, pp.1 - 16
- (to appear) 「apenasと数量詞」- 大阪外国語大学論集Vol.25